

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
中央工科デザイン専門学校		平成10年3月20日		中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-48-1 (電話) 027-255-3544		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人有坂中央学園		昭和40年12月24日		中島 利郎		〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-4 (電話) 027-256-7000		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士			
工業	工業専門課程	プロダクトデザイン学科		平成28年文部科学省告示 第19号告示第20号				
学科の目的	生活用品、雑貨類から家電製品、モバイル機器など身の回りにあるあらゆる製品のデザインと設計を学ぶ。商品企画、設計、デザイン、プレゼンなど商品開発に関わる一連の工程を実習を通して学習することで、ものづくりに携わる人材を育成する。							
認定年月日	平成26年3月31日(告示第59号)							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	1860時間	600時間	480時間	1230時間	0時間	0時間	0時間	
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
50人	18人	0人	2人	3人	5人			
学期制度	■前期: 4月1日~9月30日 ■後期: 10月1日~3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 受講態度及び定期試験、提出物等を総合的に判断し評価する。			
長期休み	■学年始め: 4月 1日 ■夏季: 8月 9日~9月8日 ■冬季: 12月16日~1月8日 ■学年末: 3月31日			卒業・進級条件	所定の修業年限以上在学し、課程を修了した者			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導については、随時連絡を取り、面談指導を行う			課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 部活動、ボランティア活動、各実行委員(学園祭、スポーツ大会、卒業制作展、謝恩会、卒業アルバム) ■サークル活動: 有			
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 印刷・デザイン・設計・製造 ■就職指導内容 担任と就職指導センター職員による、面接指導や履歴書の書き方指導を実施。就職相談、カウンセリングなどの個別相談にも対応している。 ■卒業生数 9人 ■就職希望者数 9人 ■就職者数 9人 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合 100% ■その他 ・進学者数: 0人 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)			
				資格・検定名		種別	受験者数	合格者数
				3次元CAD利用技術者試験2級		③	9	6
				2次元CAD利用技術者試験2級		③	9	3
				プロダクトデザイン検定		③	9	7
				Illustrator能力認定試験エキスパート		③	4	3
				Photoshop能力認定試験エキスパート		③	3	2
				色彩検定3級		③	4	3
				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)				
				■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 3次元CAD利用技術者試験1級 100点満点合格で表彰 第56回近代こけしコンクール こけし協同組合理事長賞 第1回新急須デザインコンテスト 準グランプリ 第41回高崎まつり うちわデザインコンテスト 最優秀賞				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 平成28年4月1日時点において、在学者21名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者19名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 (例)カウンセリング・再入学・転科の実施等 個人面談、クラスアンケートにより学生とコミュニケーションを取り、随時対応している。			■中退率 9%				
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 有坂奨学金制度: 社会人入試で受験した学生を対象に、資格取得や専門知識・技術を習得し、新たな目標の実現を考えている者に対して、学園が年間10万円の奨学金を支給する制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 昨年度、給付実績なし							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)							
当該学科のホームページURL	http://www.chuo.ac.jp/cit/dd.html							

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図ることを目的に、中央工科デザイン専門学校と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力の育成に資することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめると共に、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。

- (1)授業科目の開設に関する事項
- (2)授業内容に関する事項
- (3)授業方法の改善・工夫に関する事項
- (4)教員の実務研修に関する事項
- (5)学校関係者評価に関する事項
- (6)その他学科及び専門学校の教育に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
大島 義典	日本インダストリアルデザイナー協会	2017年4月1日～ 2018年3月31日	①
中島 利郎	中央工科デザイン専門学校 校長		
五十部 昌克	中央工科デザイン専門学校 副校長		
篠崎 恵里	中央工科デザイン専門学校 プロダクトデザイン学科長		
高杉 勝治	中央工科デザイン専門学校 プロダクトデザイン学科		
柴田 智宏	中央工科デザイン専門学校 教務事務		
笠原 文男	中央カレッジグループ 教育本部副本部長		
金田 行正	中央カレッジグループ 就職指導センター所長		
篠原 賢二	中央カレッジグループ 広報管理部 部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回

(開催日時)

平成29年度 第1回 平成29年8月 3日 18:00～19:00開催済み

平成29年度 第2回 平成30年2月22日 18:00～19:00開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

- ・プロダクトデザイナーとして企業で求められているのは、プレゼンテーション能力。ビジネスの決定の場では相手を納得させるプレゼンが必要なので、デザインをする力はもちろんのこと、プレゼンテーションをする力が求められている。  
→今までも授業で取り組んでいたが、今後はデザインを裏付ける資料の作成についても取り組んでいきたい。
- ・デザインの現場を生で体験できる機会は学生を大きく成長させることができるので、インターンシップは活用すべき。  
→インターンシップにおける需要と供給が一致する企業がないか確認している。今年度も見つけて是非挑戦させたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

専修学校の教育を施すにふさわしい授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行なう。企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス(講義概要 目的・指導方法・評価方法)に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
3DCAD実習Ⅰ・Ⅱ	CADシステムの概要を学習後、3次元CADソフトのSolidWorksを使って、3次元CADの操作方法と基本的な3次元モデリング技術を習得する。	キーライズテクノ
立体造形Ⅰ・Ⅱ	モックアップモデルの基本的な制作技術を習得する。様々な表現材料に慣れ、思い描いた形を具現化する方法を身につける。	TAKEI DESIGN

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

実務に関する知識・技術・技能の向上と指導力の向上を目指した研修を実施する。また、階層別研修やOJTによる組織的な人材育成の取組を支援するとともに、教員の学ぶ意欲や向上心を喚起する魅力ある研修を実施し、職員の自己啓発意欲を高める。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

平成28年度 専攻分野の研修実績は無し

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・2016年8月各テーマ(危機管理、学級経営、留学生対応)の発表を聞いて、学生指導に反映させる研修を受講した。
- ・2016年12月グループ各校から今年度の実践事例を聞き、学生指導の参考にする研修を受講。
- ・2017年3月ハラスメント等の規定について、グループの顧問弁護士を招き、防止策や発生時の対処方法について研修した。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- ・2017年8月著作権講習会。文化庁職員による講義を通して、商品開発時の著作権の考え方を学ぶ。

②指導力の修得・向上のための研修等

- ・2017年8月教育者向けの教育コーチング研修
- ・コマシラバス作成の基礎知識を学ぶインストラクショナルデザイン研修

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価を行い、その結果の公表・説明を保護者や業界関係者等の学校関係者に行うことで、適切に説明責任を果たす。保護者や地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2)学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3)教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4)学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5)学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
(6)教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7)学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8)財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11)国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・社会のニーズを踏まえた、新たな知識・技術を提供する機会を拡充すると共に、学生個々の能力に応じた個別指導や効率的な補習などを実施していく。
- ・学生作品を見たいとの声があり、図書室やネット上で閲覧ができるようにした。今後は作品数を継続して増やしていく。
- ・卒業生への就業状況アンケートの実施。より多く返信してもらえるための手法の検討を行い、得られた情報はカリキュラム等に反映していけるよう進めている。
- ・学園祭、卒業作品展などでより多くの学生作品の展示を行うため、卒業生や1年生の作品なども展示できるよう展示スペースの検討を行う。多くの人に作品を見てもらうことで、学生の作品制作へのモチベーションや質の向上に繋げたい。
- ・著作権や肖像権など、作品制作において気を付けなければならない権利関係の学習について、次年度からカリキュラムに反映できるよう検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
松本 州史	東京理器株式会社 代表取締役	2017年4月1日～ 2018年3月31日	企業等委員
森井 勝利	群馬漫画連盟 会長		企業等委員
宮野 知代	デザインスタジオ絵組 代表		企業等委員
矢島 達也	クシダ工業株式会社		企業等委員
石川 直哉	中央工科デザイン専門学校 卒業生		卒業生
大島 陽子	中央工科デザイン専門学校 保護者会 会長		保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.chuo.ac.jp/cit/syokugyoyujissen.html>

公表時期: 学校関係者評価委員会実施後の1か月以内を目途に公表する。

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本学は、情報公開等の推進を進め、国民や社会に対する説明責任を重視した、社会に開かれた専門学校を目指しています。そのため、教育・研究、組織・運営、人事、財務など本学の諸活動全般に関する情報を、社会に対し積極的に提供します。情報の提供は、本学ホームページへの掲載及びその他冊子などの発行、閲覧の申し出により行います。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2)各学科等の教育	入学者数、収容定員、在学生数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3)教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6)学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
(8)学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10)国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11)その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.chuo.ac.jp/cit/syokugyoujissen.html>

↑ホームページ内ページ最下部「情報提供方法一覧」にて、ガイドラインの各項目別に情報提供方法を記載している。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Webデザイン	Webコンテンツ作成に必要なHTML/CSSの知識を学び、基礎的なHTML/CSSのコーディング技術の習得および資格取得を目的とする。	2 前	30	1			○	○		○		
○			パソコン実習	Win版 Office 2016 (Excel、Word、PowerPoint、Outlook) の基本操作になれる。	1 後	30	1			○	○		○		
○			ビジネス実務	一般常識や心構え、ビジネスマナーなどの知識を得ることを目的とする。	2 後	30	1	○			○		○		
○			社会常識基礎	大人として必要な常識や心構え、ビジネスマナー、人間関係を築くための意思伝達スキルの習得を目的とする。	1 前	30	1	○			○		○		
○			3DCAD応用実習Ⅰ	3次元CAD利用技術者試験の合格(準1級、1級)と、実践的な3次元CADモデリング技術の習得を目標とする。	2 前	90	3			○	○		○		
○			3DCAD応用実習Ⅱ	実際の企画開発業務を想定して、グループの作業工程進捗管理や改善・問題解決を実践的に体験する。最後に成果をまとめ発表する。	2 後	90	3			○	○		○		
○			3DCAD実習Ⅰ	CADシステムの概要を学習後、3次元CADソフトのSolidWorksを使って、3次元CADの操作方法と基本的な3次元モデリング技術を習得する。	1 前	90	3			○	○		○	○	
○			3DCAD実習Ⅱ	3次元CAD利用者試験 準1級合格のため「①部品の3次元モデリング ②2次元図面から3次元部品のモデリング」を学習する。	1 後	90	3			○	○		○	○	
合計				8科目		480単位時間 (			16	単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			3DCAD概論	3次元CAD利用者試験2級合格をめざし、「①3次元CADの概念②3次元CADの機能と実用的モデリング手法③3次元CADデータの管理と周辺知識④3次元CADデータの活用」について学習する。	1 前	60	2	○			○		○		
○			CADシステム概論	2次元CAD利用者試験2級合格のため「①CADシステムの知識と利用②CADシステムのプラットフォーム③CADシステムの関連知識」を学習する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			Illustrator実習(Win) I	イラストレーターの基本的なオペレーションを中心に2Dデザインの基本を習得する。	1 前	60	2			○	○		○		
○			PD学科卒業制作・研究 I	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 前	60	2			○	○		○		
○			PD学科卒業制作・研究 II	テーマ設定から作品の発表・展示までを行い、制作過程を通じて問題解決能力を養うことを目的とする。	2 後	60	2			○	○		○		
○			PDゼミ I	プロダクトデザイン分野や各種検定に必要な知識・技術を学ぶ。生産現場見学などを通し、実践的な商品デザインの手法を学ぶ。	1 前	60	2			○	○		○		
○			PDゼミ II	プロダクトデザイン分野や各種検定に必要な知識・技術を学ぶ。生産現場見学などを通し、実践的な商品デザインの手法を学ぶ。	1 後	60	2			○	○		○		
○			PDゼミ III	就職活動に向けた準備として、ポートフォリオの制作、各種ビジネスマナーや履歴書作成を視野に入れた指導等も行う。	2 前	60	2			○	○		○		
合計				8科目				450単位時間 (			15	単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			PDゼミⅣ	就職活動に向けた準備として、ポートフォリオの制作、各種ビジネスマナーや履歴書作成を視野に入れた指導等も行う。	2 後	60	2	○			○		○		
○			Photoshop実習(Win)Ⅰ	Photoshopの基本操作を学習し、色調補正やペイント系ツールの使い方、画像合成技術など、幅広い知識・技術を習得する。	1 前	30	1			○	○		○		
○			Photoshop実習(Win)Ⅱ	Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダードの受験に向けた学習を行うと共に、画像処理の作業技術を向上させる。	1 後	30	1			○	○		○		
○			プロダクトデザイン概論	プロダクトデザイン検定2級合格を目標に、プロダクトデザインや商品開発に関わる基礎的な知識を習得することを目的とする。	1 前	60	2	○			○		○		
○			プロダクトデザイン企画Ⅰ	製品におけるデザインの果たす役割を理解する。ものづくりにおける幅広い視点を持って取り組む姿勢の必要性を知り、ものづくりの過程と奥深さを学習する。	1 前	60	2			○	○			○	
○			プロダクトデザイン企画Ⅱ	製品におけるデザインの果たす役割を理解する。ものづくりにおける幅広い視点を持って取り組む姿勢の必要性を知り、ものづくりの過程と奥深さをより深く学習する。	2 後	60	2			○	○			○	
○			機械製図	2次元CAD利用者試験2級合格のため「①JIS製図の知識 ②平面図形と立体図形」を学習する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			立体造形Ⅰ	モックアップモデルの基本的な制作技術を習得する。様々な表現材料に慣れ、思い描いた形を具現化する方法を身につける。	1 前	30	1			○	○			○	○
合計					8科目	360単位時間 (			12		単位)				

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			立体造形Ⅱ	応用的なモックアップモデルの制作技術を習得する。様々な表現材料に慣れ、思い描いた形を具現化する方法を身につける。	1後	60	2			○	○			○	○
	○		3DCG実習Ⅰ	Autodesk Mayaを利用した3DCGモデル制作の基本フローを学習する。	2前	30	1			○	○			○	
	○		Illustrator実習(Win)Ⅱ	イラストレーターの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける事を目的とする。	1後	60	2			○	○			○	
	○		イメージ表現Ⅰ	鉛筆・ボールペンを使用し、フリーハンドのプロダクトスケッチ力を身につけることを目的とする。作品をデータで取り込みデジタル彩色を施すことも行う。	1前	60	2			○	○			○	
	○		イメージ表現Ⅱ	コピックを使用し、フリーハンドのプロダクトスケッチ力を身につけることを目的とする。作品をデータで取り込みデジタル彩色を施すことも行う。	1後	30	1			○	○			○	
	○		デザイン基礎	デザインにおける“形態”“構成”“動線”の意味や効果、視覚的印象などを理解し、デザインをする上での理論的な考え方や視点について学ぶ。	1後	60	2	○			○			○	
	○		プロダクトコンピュータ演習Ⅰ	Photoshopクリエイター能力認定試験エキスパート受験に向けて知識・技術の習得を行う。応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける。	2前	30	1			○	○			○	
	○		プロダクトコンピュータ演習Ⅱ	Illustrator、Photoshopの応用的なオペレーションを中心にデザイナーとしての実践的なスキルを身につける事を目的とする。	2後	30	1		○		○			○	
合計				8科目	360単位時間 (			12		単位)					

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			プロダクトデザイン演習Ⅰ	ユーザに合わせたコンセプト設定及び、企画開発を行う考え方を習得することを目的とする。	2 前	30	1	○			○	○			
○			プロダクトデザイン演習Ⅱ	ユーザに合わせたコンセプト設定及び、企画開発を行う考え方を習得することを目的とする。	2 後	30	1	○			○	○			
○			メカトロニクス概論	機構・センサ・アクチュエータ・シーケンス制御・コンピュータ制御の知識と、基礎的な電子機械の設計について学ぶ。	2 前	30	1	○			○	○			
○			ものづくり総合Ⅰ	安全衛生の基礎知識（災害の原因と予防、安全一般と安全管理）を学習する。	2 前	30	1	○			○	○			
○			ものづくり総合Ⅱ	安全衛生の基礎知識（災害の原因と予防、安全一般と安全管理）をより深く学習する。	2 後	30	1	○			○	○			
○			機械CAD応用実習	2次元CAD利用技術者試験1級合格のために、AutoCADを使って1級検定の過去問題を全て完璧に作図する。	2 前	30	1				○	○	○		
○			機械CAD実習Ⅰ	CADシステムの概要を学習後、2次元CADソフトのAutoCADを使って2次元CADの操作方法と基本的な機械CAD技術を習得する。	1 前	60	2				○	○	○		
○			機械CAD実習Ⅱ	2次元CAD利用技術者試験1級（①機構部品の作図、②適切な数値からの作図、③投影図からの作図）を難易度を上げながら学習する。	1 後	60	2				○	○	○		
合計				8科目				300単位時間（			10	単位）			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			機械工学概論	機械工学の概論を学習後、流体・熱工学と工作を重点的に学習する。	1 前	30	1	○			○		○		
○			機械要素設計	機械要素（歯車・ベルトとチェーン・軸と軸継手・軸受・ねじ・ばね・カムとリンク他）について学習する。	1 後	30	1	○			○		○		
○			工学基礎実習	機械工学の専門学習に必要な数学・物理・化学を学習する。	1 前	60	2			○	○		○		
○			材料学	材料選定のための工業材料の基礎知識（機械的性質・工業材料の化学と金属学・鉄・非鉄金属材料・非金属材料他）を学習する。	2 前	30	1	○			○		○		
○			材料力学	材料の引張・圧縮・せん断・曲げ・ねじりの変形に対する強度計算の方法を学習する。	2 後	30	1	○			○		○		
○			色彩応用	実践的な色彩配色を学び、色彩検定2級取得を目的とする。	1 後	30	1		○		○		○		
○			色彩基礎	色の基本的な体系理論をテキストや配色カードを使って理解し、色彩の実用価値や効果を色彩検定3級をめざし学習する。	1 前	60	2	○			○		○		
○			造形実習	布やシリコン等の様々な素材の特性を知る。自分がデザインした製品・作品に適した素材を選び、表現できる手法を身につける。	2 前	60	2			○	○		○		
合計			8科目		330単位時間			(		11		単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(工業専門課程プロダクトデザイン学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			品質管理工学	品質管理の基礎知識（品質管理とは・品質管理活動・より良い製品づくりのための心構えと行動）を学習する。	2 後	30	1	○			○		○		
合計						1科目		30単位時間 (			1	単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、受講態度及び演習課題、出席率、定期考査を総合的に判断する。尚、卒業基準は①年間換算欠席日数が20日以下の者。②卒業基準の鑑定試験に合格した者。③全必修科目評定合格者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。